

中期目標の達成状況に関する評価結果

(中期目標期間終了時評価)

北陸先端科学技術大学院大学

令和5年3月

大学改革支援・学位授与機構

目 次

法人の特徴	1
-------	---

(法人の達成状況報告書から転載)

評価結果

《概要》	4
------	---

《本文》	5
------	---

《判定結果一覧表》	16
-----------	----

—《本文》における特記事項の冒頭「○」「●」について—

- ：第3期中期目標期間4年目終了時評価において抽出されている特記事項※
- ：第3期中期目標期間終了時評価において、4年目終了時評価結果を変えうるような顕著な変化として、追加で抽出されている特記事項

※ 新型コロナウイルス感染症下における対応については、4年目終了時評価結果を変えうるような顕著な変化の有無にかかわらず、令和2、3年度における取組や実績等を更新している。

I. 法人の特徴

大学の基本的な目標（中期目標前文）

北陸先端科学技術大学院大学は、豊かな学問的環境の中で世界水準の教育と研究を行い、科学技術創造により次代の世界を拓く指導的人材を育成するとの理念を掲げ、先端科学技術を担う大学院大学として、持続可能な地球社会の諸課題の解決に向けた基礎科学、応用科学の探究や、社会のニーズを踏まえた研究開発等に挑戦するとともに、社会のあるべき姿からのアプローチによる課題探究を推進してきた。

平成24～25年度のミッションの再定義においても、人材育成の目標を先端科学技術の確かな専門性ととともに、幅広い視野や高い自主性、コミュニケーション能力を持つ、社会や産業界のリーダーを育成すると定めた。その上で博士前期課程においては、「幅広い基盤的専門知識を理解し問題解決に応用できる人材育成の役割」を、博士後期課程においては、「世界的に通用する高い研究能力と俯瞰的な視野を持ち、問題の発見と解決のできる研究者・技術者育成の役割を果たす」ことを全学共通の人材育成像として明確化した。

また、学部を置かない大学院大学として、国内外から多様な出身・分野の学生が集まることの特性を生かし、新しい分野を拓き得る人材の育成を行うとともに、柔軟な組織運営により先端科学技術を追求するパイロットスクールとして、開学以来数々の教育研究上の成果を挙げてきた。

こうした実績を背景に、第3期中期目標期間においては、大学院大学としての特色を生かした全学融合体制への移行によるニーズ指向の研究大学としての地位を確立し、学内外の知を融合した新たな先端科学技術分野の創出と当該分野における世界的な教育研究拠点の形成を推進するとともに、産業界等において世界的に活躍しうる「知的にたくましい」人材の育成や社会的課題の解決、イノベーションの創出に貢献する。

- 1 先端科学技術の確かな専門性ととともに、幅広い視野や高い自主性、コミュニケーション能力をもつ、社会や産業界のリーダーを育成する。博士前期課程においては、特に、幅広い基盤的専門知識を理解し問題解決に応用できる人材育成の役割を、また、博士後期課程においては、世界的に通用する高い研究能力と俯瞰的な視野を持ち、問題の発見と解決のできる研究者・技術者育成の役割を果たす。
- 2 体系的コースワーク、厳格な成績評価による質保証等の先進的大学院教育システムや英語のみによる学位取得、多数の外国人教員・留学生、世界をリードする教育研究機関との大学院国際協働教育プログラム、グループワークを中心としたフィールド指向の教育プログラムの開発等、トップレベルの理工系グローバル人材育成及び我が国唯一の知識科学グローバル人材育成の体制を構築してきた実績を生かし、世界で活躍できる理工系人材及び知識基盤社会のリーダーの育成を推進する。

- 3 知識科学分野での教育研究成果の全学的な展開等により、社会の変化に対応できる柔軟かつ機動的な全学融合的教育研究体制を構築する。
- 4 世界トップレベルの研究実績をもとに先端的な研究を行い、世界や社会の課題を解決する研究に挑戦し、卓越した研究拠点を形成すると同時に、多様な基礎研究や研究科を超えた連携による新たな領域を開拓し、研究成果の社会還元を積極的に行う。
- 5 産業界での本格的利用・採用に至った産学連携の高い実績を踏まえ、産業界との連携を一層強化し、実社会で活躍する博士人材の育成を促進する。また、知識科学分野、情報科学分野及びマテリアルサイエンス分野の連携により、産業構造や社会の変革を見据えた研究を統合的に展開し、イノベーションに貢献するとともに、社会と地域の発展に寄与する。
- 6 東京サテライトにおける理論と実践を融合した社会人教育の実績を生かし、更に本学の先端的な研究成果を取り入れた教育プログラムを開発し、産業界や社会のイノベーションを担う社会人の再教育を行う。

[個性の伸長に向けた取組 (★)]

- 全学融合教育研究体制の下、カリキュラム・ポリシーに基づき、各学位に対応し階層化された体系的な教育課程を編成するとともに、各分野の垣根を低くし、学生のキャリア目標に応じた融合領域における履修や、複数の教員による異なる視点からの研究指導を可能とする柔軟かつ多角的な教育研究指導體制を構築した。(関連する中期計画 1-1-1-1)
- 学長のリーダーシップによる教員人事の一元化の仕組みを生かし、十分な指導力と多様性を有する教員を採用し、人事計画委員会で認めた分野に重点的に配置した。
また、2019年度から導入した客観的指標に基づく新たな教員業績評価において、教育に関する指標を設けることにより、教育活動に対する教員のモチベーション向上を図っている。(関連する中期計画 1-2-1-1)
- 学生獲得タスクフォースにおいて学生獲得策を検討し、従来の大学院説明会に加え、近隣大学キャンパス内での大学院説明会、受験生のためのオープンキャンパス、Uターン奨励金の導入等、積極的な情報発信等を行った結果、2017年度以降の先端科学技術専攻博士前期課程の入学志願者数(秋入学を含む。)は、2015年度比約2倍となり、2017年度以降5年連続で志願倍率2倍を超えた。こうした志願倍率の改善は、入学定員充足率の安定化や、優秀な学生の選抜にも繋がった。(関連する中期計画 1-4-1-1)

[戦略性が高く意欲的な目標・計画 (◆)]

- <ユニット1>卓越した国際的研究拠点・実証拠点(エクセレントコア)の構築
1 研究科への移行による全学融合体制を確立し、知識科学の方法論を本学の強み・特色であ

る研究分野に反映させるとともに、学長のリーダーシップを生かした資源の重点配分を行うことにより、世界や社会の課題を解決するためのニーズ指向研究への転換を図り、卓越した国際的研究拠点・実証拠点（エクセレントコア）を構築する。（関連する中期計画 2-1-1-1）

○ ＜ユニット 2＞知識科学の方法論を用いた日本型イノベーションデザイン教育の実施や産業界との連携強化によるイノベーション創出人材の輩出

1 研究科体制の下、産業界等でグローバルに活躍しうるイノベーション創出人材を育成するため、知識科学的方法論を教育課程全体に普及させ、産業界のニーズを踏まえた教育研究活動を展開するとともに、学生が海外の学術交流協定機関等で研修に参加する機会を充実・強化する。（関連する中期計画1-1-1-2、1-3-1-2）

評価結果

《概要》

第3期中期目標期間の教育研究の状況について、法人の特徴等を踏まえ評価を行った結果、北陸先端科学技術大学院大学の中期目標（大項目、中項目及び小項目）の達成状況の概要は、以下のとおりである。

＜判定結果の概要＞

中期目標（大項目）	判定	中期目標（小項目）判定の分布				
		【5】 特筆すべき実績を 上げている	【4】 優れた実績を上げ ている	【3】 達成して いる	【2】 十分に達 成してい るとはい えない	【1】 達成して いない
I 教育に関する目標	【4】 上回る成果が 得られている					
1 教育内容及び教育の成果等に関する目標	【3】 達成している			1		
2 教育の実施体制等に関する目標	【3】 達成している			1		
3 学生への支援に関する目標	【3】 達成している			1		
4 入学者選抜に関する目標	【4】 上回る成果が 得られている		1			
II 研究に関する目標	【5】 顕著な成果が 得られている					
1 研究水準及び研究の成果等に関する目標	【4】 上回る成果が 得られている		1			
2 研究実施体制等に関する目標	【4】 上回る成果が 得られている		1			
III 社会との連携や社会貢献及び地域を志向した教育・研究に関する目標	【4】 上回る成果が 得られている					
	なし		1			
IV その他の目標	【3】 達成している					
1 グローバル化に関する目標	【3】 達成している			1		

※ 大項目「I 教育に関する目標」及び「II 研究に関する目標」においては、4年目終了時に実施した学部・研究科等の現況分析結果による加算・減算を反映している。

《本文》

I 教育に関する目標（大項目1）

1. 評価結果及び判断理由

【評価結果】 中期目標を上回る成果が得られている

（判断理由）「教育に関する目標」に係る中期目標（中項目）4項目のうち、1項目が「中期目標を上回る成果が得られている」、3項目が「中期目標を達成している」であり、これらの結果に学部・研究科等の現況分析結果（教育）を加算・減算して総合的に判断した。

2. 中期目標の達成状況

（1）教育内容及び教育の成果等に関する目標（中項目1-1）

【評価結果】 中期目標を達成している

（判断理由）「教育内容及び教育の成果等に関する目標」に係る中期目標（小項目）が1項目であり、当該小項目が「中期目標を達成している」であることから、これらを総合的に判断した。

小項目 1-1-1	判定		判断理由
全学融合体制による新たな教育システムを構築して多様な背景を有する学生に大学院教育を行い、先端科学技術の確かな専門性ととも、幅広い視野や高い自主性、コミュニケーション能力を持つ、社会や産業界のリーダーを育成し、社会に潜在している未来のニーズの顕在化を実現するイノベーション創出人材として輩出する。特に博士後期課程においては、産業界等でグローバルに活躍しうる人材の輩出を目指す。	【3】	中期目標を達成している	・ 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ、中期計画の実施により、小項目を達成している。
	《特記事項》		
	（特色ある点） ○ 知識科学的イノベーションデザイン教育の実践 知識科学の方法論である「知識科学的イノベーションデザイン教育」を全学的に普及・展開するため、人間力や創出力を培うためのコアカリキュラム（必修科目）として、全入学者を対象に「人間力イノベーション論」、「創出力イノベーション論」及び「人間力・創出力イノベーション論」を開設している。また、これらの科目については、イノベーションに関わる概念の理解度及びグループ活動（グループ演習及びグループ演習最終発表）の寄与度により成績を評価している。 （中期計画 1-1-1-2）		

	<p>○ 産業界との連携による教育 産業界から招聘する URA（企業 URA）による実践演習、修士論文等中間発表会におけるインダストリアルアドバイザーからの助言、産業界・地方自治体等が抱える諸課題の解決に向けた「副テーマ研究」におけるインターンシップ等、産業界との連携による教育を実践している。（中期計画 1-1-1-3）</p> <p>○ 学生の海外派遣への支援 学生の国際的な経験の機会を充実・強化するため、海外の学術交流協定機関等と連携した「研究留学」、海外での研究発表を支援する「学生研究・学外研修制度」及び海外でのインターンシップへの参加を支援する取組を行っている。これにより、令和 2・3 年度においては、新型コロナウイルス感染症の影響により、目標値である毎年 80 名以上を達成できなかったものの、平成 28 年度から令和元年度では達成している。（中期計画 1-1-1-4）</p>
--	--

（2）教育の実施体制等に関する目標（中項目 1-2）

<p>【評価結果】 中期目標を達成している</p> <p>（判断理由）「教育の実施体制等に関する目標」に係る中期目標（小項目）が 1 項目であり、当該小項目が「中期目標を達成している」であることから、これらを総合的に判断した。</p>
--

小項目 1-2-1	判定	判断理由
1 研究科の下、知識科学の方法論や産業界との連携等を全学的に展開する全学融合体制を構築する。教育上の成果や評価を柔軟かつ機動的に更なる教育改革・改善につなげる教育実施体制を進展させる。	【3】 中期目標を達成している	<ul style="list-style-type: none"> 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ、中期計画の実施により、小項目を達成している。
	<p>《特記事項》</p> <p>（特色ある点）</p> <p>○ 全学的な人事マネジメント 学長のリーダーシップによる教員人事の一元化の仕組みを活かし、十分な指導力と多様性を有する教員を採用し、特に人事計画委員会で認めた分野に対して重点的に配置している。また、令和元年度から導入した客観的指標に基づく新たな教員業績評価制度において、指導学生の修了者数、指導学</p>	

	<p>生の国際学会発表数等の教育に関する指標を設けることにより、教育活動に対する教員のモチベーション向上を図っている。(中期計画 1-2-1-1)</p> <p>○ アクティブ・ラーニングの推進</p> <p>全ての教員を対象にアクティブ・ラーニングの手法を用いた全学FDを毎年度3回開催しているほか、各学系においても成績評価の客観性や妥当性、履修指導、課題研究の評価方法等をテーマとする独自のFDを計画的に実施している。(中期計画 1-2-1-4)</p> <p>○ 新型コロナウイルス感染症下の教育</p> <p>新型コロナウイルス感染症の影響下における学生の学習機会を確保するための取組として、令和2年12月から、1つの講義に対して、学生がオンラインまたは対面式のいずれかの受講を選択することができるハイフレックス方式を導入している。</p>
--	--

(3) 学生への支援に関する目標 (中項目 1-3)

<p>【評価結果】 中期目標を達成している</p> <p>(判断理由) 「学生への支援に関する目標」に係る中期目標 (小項目) が1項目であり、当該小項目が「中期目標を達成している」であることから、これらを総合的に判断した。</p>

小項目 1-3-1	判定	判断理由
<p>多様な背景を有する学生に対する経済的支援の見直しや学生生活及びキャリア形成・就職等への取組の充実を図り、よりきめ細やかな学生支援・指導を推進する。</p>	<p>【3】</p> <p>中期目標を達成している</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ、中期計画の実施により、小項目を達成している。
	<p>《特記事項》</p> <p>(特色ある点)</p> <p>○ 産業界と連携した博士人材育成支援制度の創設</p> <p>産業界が求める博士人材を育成するための新たな取組として、企業が博士後期課程に進学を希望する学生に対し、修了後に当該企業に就職することを条件に授業料や生活費に相当する奨学金を貸与し、学生が当該企業で一定期間 (原則3年間) 勤務すれば返済が免除される制度を平成30年度に創設している。(中期計画 1-3-1-1、1-3-1-2)</p>	

(4) 入学者選抜に関する目標 (中項目 1-4)

【評価結果】 中期目標を上回る成果が得られている

(判断理由) 「入学者選抜に関する目標」に係る中期目標 (小項目) が1項目であり、当該小項目が「中期目標を達成し、優れた実績を上げている」であることから、これらを総合的に判断した。

小項目 1-4-1	判定		判断理由
<p>全学融合体制の下、積極的な情報発信や意欲重視の入学者選抜を推進し、過去の経歴や専攻分野にとらわれることなく、広く大学等の卒業生や修了者、社会人及び留学生等を、円滑な学修を意図して受け入れ、より多くのイノベーション創出人材の養成に結びつける。</p>	<p>【4】</p>	<p>中期目標を達成し、優れた実績を上げている</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ、中期計画の実施により、小項目を達成している。 ・ また、特記事項を判断要素とし、総合的に判断した結果、「積極的な入試広報活動の効果」が優れた点として認められるなど「優れた実績」が認められる。
	<p>《特記事項》</p>		
	<p>(優れた点)</p> <p>○ 積極的な入試広報活動の効果</p> <p>学生獲得タスクフォースにおいて学生獲得策を検討し、従来の大学院説明会に加え、近隣大学のキャンパス内での大学院説明会の開催、受験生のためのオープンキャンパスの開催、Uターン奨励金の導入等、積極的な情報発信等を行っている。その結果、令和元年度の先端科学技術専攻博士前期課程の入学志願者数 (秋入学を含む) は、平成 27 年度比 2.07 倍の 727 名となり、平成 29 年度以降は 3 年連続で志願倍率 2 倍を超えている。</p> <p>(中期計画 1-4-1-1)</p> <p>(特色ある点)</p> <p>○ 日本留学 AWARDS での受賞</p> <p>外国人留学生に対して勧めたい進学先を調査し選定している「日本留学 AWARDS 大学院 (西日本地区) 部門」において、4 年連続で入賞し、さらに平成 28 年度及び平成 29 年度には大賞も受賞するなど、教育内容、学校設備及び学習面での留学生サポート等の実績が高く評価されている。(中期計画 1-4-1-1)</p>		

II 研究に関する目標（大項目2）

1. 評価結果及び判断理由

【評価結果】 中期目標を上回る顕著な成果が得られている

(判断理由) 「研究に関する目標」に係る中期目標（中項目）2項目のうち、2項目が「中期目標を上回る成果が得られている」であり、これらの結果に学部・研究科等の現況分析結果（研究）を加算・減算して総合的に判断した。

2. 中期目標の達成状況

(1) 研究水準及び研究の成果等に関する目標（中項目2-1）

【評価結果】 中期目標を上回る成果が得られている

(判断理由) 「研究水準及び研究の成果等に関する目標」に係る中期目標（小項目）が1項目であり、当該小項目が「中期目標を達成し、優れた実績を上げている」であることから、これらを総合的に判断した。

小項目 2-1-1	判定		判断理由
イノベーションデザイン研究、サービスサイエンス研究等の実績を生かして知識科学体系を確立し、ネットワーク・セキュリティ、理論計算機科学、ゲーム・エンタテインメント等の情報科学分野、半導体プロセス、イノベティブデバイス機能集積化、高性能天然由来材料等の材料サイエンス分野における世界トップレベルの研究実績をもとに先端的な研究を行い、世界や社会の課題を解決する研究（シーズ指向研究からニーズ指向研究への転換）に挑戦し、卓越した研究拠点を形成すると	【4】	中期目標を達成し、優れた実績を上げている	<ul style="list-style-type: none"> 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ、中期計画の実施により、小項目を達成している。 また、特記事項を判断要素とし、総合的に判断した結果、「エクセレントコアの体制整備及び研究の推進」が優れた点として認められるなど「優れた実績」が認められる。
	<<特記事項>> (優れた点) ○ エクセレントコアの体制整備及び研究の推進 社会的課題の解決や未来ニーズに応える研究を推進するため、国際的研究拠点・実証拠点（エクセレントコア）の3拠点において、若手研究者や外国人研究者の雇用、世界トップレベルの研究者の招聘等により、優れた研究人材の集積を図っている。その結果、エクセレントコアにおける Top10%論		

<p>ともに、新たな研究領域を開拓する。</p>	<p>文比率は、平成 26 年度から平成 28 年度までの 3 か年平均値 9.2%から平成 28 年度から平成 30 年度までの 3 か年平均値 11.3%へと上昇している。(中期計画 2-1-1-1)</p> <p>(特色ある点)</p> <p>○ 新研究領域への組織的支援</p> <p>新たな研究領域の開拓に向けて、エクセレントコアとしての研究拠点を目指す組織をリサーチコアと認定し、支援を行っている。具体的には、AI とデザイン関連分野を融合させた新たな研究領域における研究を、令和 2 年度にリサーチコア拠点「協生 AI×デザイン拠点」として認定している。(中期計画 2-1-1-2)</p>
--------------------------	--

(2) 研究実施体制等に関する目標 (中項目 2-2)

<p>【評価結果】 中期目標を上回る成果が得られている</p> <p>(判断理由) 「研究実施体制等に関する目標」に係る中期目標 (小項目) が 1 項目であり、当該小項目が「中期目標を達成し、優れた実績を上げている」であることから、これらを総合的に判断した。</p>

小項目 2-2-1	判定		判断理由
<p>社会的な課題を解決する研究や国際的研究拠点の形成をはじめとする各研究活動の状況に応じた研究支援体制を整備し、学外有識者を含めた検討体制による不断の見直しを行う。</p>	<p>【4】</p>	<p>中期目標を達成し、優れた実績を上げている</p>	<ul style="list-style-type: none"> 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ、中期計画の実施により、小項目を達成している。 また、特記事項を判断要素とし、総合的に判断した結果、「レビューによる研究組織の見直し」が優れた点として認められるなど「優れた実績」が認められる。
<p>《特記事項》</p>			
<p>(優れた点)</p> <p>○ レビューによる研究組織の見直し</p> <p>研究施設やエクセレントコアにおける研究活動の質の向上を図るため、チェック・アンド・レビューを実施して研究活動の進捗と成果を確認するとともに、学外委員からの意見を、研究施設等の期間延長・廃止 (サービスサイエンス研究</p>			

	<p>センターなど) の決定に反映させるなど、研究活動状況についての見直しを行っている。(中期計画 2-2-1-2)</p> <p>(特色ある点)</p> <p>○ URA による研究支援</p> <p>URA による企業訪問等の活動によって、企業との「組織対組織」による大型共同研究契約や、地方自治体との相互連携協定の締結等、産業界・地方自治体との連携の強化が実現している。教員の研究シーズを民間企業等へ提案して共同研究を行う「提案型共同研究」の制度を新設し、平成 29 年度から令和元年度までに 12 件の「提案型共同研究」を行っている。また、URA が研究シーズの提案だけでなく、共同研究に係る一連の業務（契約締結、研究の進捗管理等）へも関与している。(中期計画 2-2-1-1)</p> <p>○ 外部研究資金の獲得に向けた支援</p> <p>教員による外部研究資金獲得に向けた研究活動を支援するため、民間企業等との研究活動のうち、将来的に共同研究への進展が期待されるものに対し、初期費用を大学が負担する「共同研究推進助成事業」を実施している。(中期計画 2-2-1-1)</p>
--	--

Ⅲ 社会との連携や社会貢献及び地域を志向した教育・研究に関する目標(大項目3)

1. 評価結果及び判断理由

【評価結果】 中期目標を上回る成果が得られている

(判断理由) 「社会との連携や社会貢献及び地域を志向した教育・研究に関する目標」に係る中期目標(小項目)が1項目であり、当該小項目が「中期目標を達成し、優れた実績を上げている」であることから、これらを総合的に判断した。

2. 中期目標の達成状況

小項目 3-1-1	判定		判断理由	
<p>産業界での本格的利用・採用に至った産学連携の高い実績を踏まえ、産業構造や社会の変革を見据えた研究を統合的に展開し、産業のイノベーションに貢献するとともに、地域社会の発展にも寄与する。</p>	【4】	中期目標を達成し、優れた実績を上げている	<ul style="list-style-type: none"> 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ、中期計画の実施により、小項目を達成している。 また、特記事項を判断要素とし、総合的に判断した結果、「行動計画に基づく産学連携の推進」が優れた点として認められるなど「優れた実績」が認められる。 	
		<p>《特記事項》</p>		
		<p>(優れた点)</p> <p>○ 行動計画に基づく産学連携の推進</p> <p>平成26年度に策定したASANO VISION 2020について、平成28年度にこれまでの実績を踏まえた見直しを行い、今後3年間のアクションプランを追加するなど大幅な改定を行っている。この際、全員参加の産学連携を具体的に進めるための行動計画を定めている。この行動計画に基づき、共同研究、受託研究、技術サービスの実施件数を増加させる取組を強化した結果、令和元年度の実施件数の合計は、対平成27年度比49%増(目標30%増)となる167件となっている。</p> <p>(中期計画 3-1-1-1)</p> <p>○ 社会教育の展開</p> <p>石川県内の高等教育機関が参画する「大学コンソーシアム石川」及び北陸三県の国立大学が参画する「北陸地区国立大学連合」と連携し、一般市民向けの公開講座「北陸地区4大学連携まちなかセミナー」を毎年度「JAIST フェスティバル</p>		

	<p>ル」で開催している。参加者数は、平成 27 年度の 20 名に対し、平成 28 年度から令和元年度の平均値は 72 名に増加している。(中期計画 3-1-1-2)</p> <p>(特色ある点)</p> <p>○ マッチングによる産学連携の推進</p> <p>平成 28 年度に改定した ASANO VISION 2020 に基づく具体的な取組として URA を増員するとともに、Matching HUB Kanazawa をはじめとする産業界とのマッチング事業を展開している。その結果、令和元年度における産学官連携に関する他機関との協議件数は、対平成 27 年度比 76%増（目標対平成 27 年度比 50%増）となる 679 件に達している。(中期計画 3-1-1-1)</p>
--	---

IV その他の目標（大項目4）

1. 評価結果及び判断理由

【評価結果】 中期目標を達成している

（判断理由）「その他の目標」に係る中期目標（中項目）が1項目であり、当該中項目が「中期目標を達成している」であることから、これらを総合的に判断した。

2. 中期目標の達成状況

（1）グローバル化に関する目標（中項目4-1）

【評価結果】 中期目標を達成している

（判断理由）「グローバル化に関する目標」に係る中期目標（小項目）が1項目であり、当該小項目が「中期目標を達成している」であることから、これらを総合的に判断した。

小項目 4-1-1	判定		判断理由
重点地域・機関を明確化した海外の大学等との教育研究交流や、世界レベルの研究開発・実証拠点形成に向けた取組を通じて戦略的な国際交流を推進する。	【3】	中期目標を達成している	・ 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ、中期計画の実施により、小項目を達成している。
	<<特記事項>> （特色ある点） ○ 海外との双方向型教育プログラムの構築 大学の世界展開力強化事業「インド等の海外で活躍できる知的にたくましい先導的科学家・技術者の育成」の一環として、平成30年度からインド工科大学ガンディナガル校とダブルディグリー・プログラム（双方向型）を開設している。また、天津大学（中国）との間では、従来から行っていたダブルディグリー・プログラム（受入型）を、学生の派遣を伴う双方向型協働教育プログラムとして更新している。 （中期計画 4-1-1-1） ○ エクセレントコアによる国際的な研究の推進 エクセレントコア2拠点（シングルナノイノベーションデバイス研究拠点及び高性能天然由来マテリアル開発拠点）について、より国際的かつ融合的な拠点とするため、令和2年度から新たに3つの国際研究拠点とする発展的な改組を行っ		

	<p>ている。これにより、既設の高信頼 IoT 社会基盤研究拠点（平成 28 年度設置済）と合わせて 4 拠点体制となっている。（中期計画 4-1-1-2）</p>
--	--

《判定結果一覧表》

中期目標(大項目)	判定	下位の中期目標・中期計画における各判定の平均値 ※	(参考) 4年目終了時評価の判定
中期目標(中項目)			
中期目標(小項目)			
中期計画			
大項目1 教育に関する目標	【4】	3.50 うち現況分析結果加算点 0.25	【4】
中項目1-1 教育内容及び教育の成果等に関する目標	【3】	3.00	【3】
小項目1-1-1 全学融合体制による新たな教育システムを構築して多様な背景を有する学生に大学院教育を行い、先端科学技術の確かな専門性とともに、幅広い視野や高い自主性、コミュニケーション能力を持つ、社会や産業界のリーダーを育成し、社会に潜在している未来のニーズの顕在化を実現するイノベーション創出人材として輩出する。特に博士後期課程においては、産業界等でグローバルに活躍しう人材の輩出を目指す。	【3】	2.20	【3】
中期計画1-1-1-1(★) 【1】全学融合体制において組織的・体系的教育を実施するため、3つの系(知識科学系、情報科学系、マテリアルサイエンス系)に対応する「学位プログラム」を構築しつつ、研究領域を超えた教育を行うため、以下の教育方法・制度を確立する。実施結果を踏まえ、修了者及び社会からの評価を分析し、教育方法・制度の必要な見直しを行う。修了者及びその上司へのアンケート調査を実施し、それぞれの満足度を70%以上にする。 ・オーダーメイド型履修指導:個々の学生のキャリア目標、学修歴、研究計画等を踏まえて行う履修指導の方法。 ・フュージョン型研究指導:学生が求めるキャリア目標や学修歴に応じて、分野の異なる教員や産業界から招へいするリサーチ・アドミニストレーター(URA)との協働、国内外の研究機関等における研究実施により学位論文の作成を支援する研究指導の方法。 ・研究室ローテーション:特定の分野にとらわれず、幅広い視点からの研究指導を行うため、学修段階に応じて研究室を移動する制度。	【2】	実施している	【2】
中期計画1-1-1-2(◆) 【2】知識科学の方法論である「知識科学的イノベーションデザイン教育」を全学的に普及・展開するため、キー・コンピテンシー(必要能力)の強化や全学融合的な教養教育を担う「人間力強化プログラム」と、専門知識の発展から多様な価値の創出を目指す「創出力強化プログラム」を開発し、実践するとともに、本プログラムにおける教育効果を検証するため、授業評価アンケートを実施し、プログラムの改善に活用する。	【3】	優れた実績を上げている	【3】
中期計画1-1-1-3 【3】産業界のニーズを踏まえた教育研究活動を展開するため、次の取組を行う。 ・産業界のニーズと本学の研究シーズのマッチングを強化し、産業界から招へいするリサーチ・アドミニストレーター(URA)による実践演習等を通じて教育研究活動を展開する。 ・地域の社会人が学びやすい教育拠点を整備するとともに、地域の産業界・地方自治体等が抱える諸課題の解決及び地域の振興を担う人材の育成を目指した教育プログラムを開発・実施する。 ・産業界が求める人間力やコミュニケーション能力を備えた人材を育成するため、全学のFaculty Development(以下「FD」という。)等を通じて教育方法を見直すことにより、教育の質保証を担保するとともに、様々な背景を有する学生の多様性を活かし、社会人学生や留学生との協働による教育を展開する。	【2】	実施している	【2】
中期計画1-1-1-4(*) 【4】グローバル化する世界にあって、国際的な場で活躍する人材を産業界等社会に輩出するため、次の取組を行う。 ・海外の学術交流協定機関と連携した学生の協働教育をはじめとする研究留学、国際ワークショップ等による研究発表、学生のキャリア教育支援のための海外におけるインターンシップ等の学外研修を実施し、学生の学外研修参加者数を毎年80名以上とする。 ・学生の海外派遣に伴う危機管理意識を高めるため、現地安全情報マニュアル等での情報提供の充実を図るとともに、講習会を開催する。 ・海外派遣に向けた学生のモチベーションを高め、キャリアパスについて考える機会を与えるため、海外進出企業等と連携して、派遣前学生に対するセミナーを実施する。 ・学生の国際コミュニケーション能力の向上を促進するため、派遣先での英語による情報収集・発信能力を高める実践的語学教育を実施し、定期的に教育方法等の見直しを行う。 ・中・長期に海外へ派遣する学生についてTOEIC 730点(TOEFL iBT 80点)を目標基準とする。	【2】	実施している	【2】

中期目標(大項目)	判定	下位の中期目標・中期計画における各判定の平均値 ※	(参考) 4年目終了時評価の判定	
中期目標(中項目)				
中期目標(小項目)				
中期計画				
中期計画1-1-1-5 【5】 俯瞰的視点と独創力を備えグローバルリーダーとして活躍できる優秀な人材を育成するため、質を保證した博士課程教育を確立する観点から、従来の学位審査方法に加え、博士論文研究基礎力審査を全学展開し、平成31年度までに審査方法等について必要な見直しを行う。博士の学位取得を目指す博士前期課程学生のうち、博士論文研究基礎力審査を受ける学生数を平成33年度までに20%とする。	【2】	実施している	【2】	
中項目1-2 教育の実施体制等に関する目標	【3】	達成している	3.00	【3】
小項目1-2-1 1 研究科の下、知識科学の方法論や産業界との連携等を全学的に展開する全学融合体制を構築する。教育上の成果や評価を柔軟かつ機動的に更なる教育改革・改善につなげる教育実施体制を進展させる。	【3】	達成している	2.25	【3】
中期計画1-2-1-1(★) 【6】 全学融合的な教育課程における教育活動を推進するため、次の取組を行う。 ・全学融合的な教育課程を効率的・効果的に実施するために、十分な指導力と多様性を有する教員を配置し、平成31年度までに必要な見直しを行う。 ・全学融合的な教育活動を推進するため、全学情報環境における並列計算、情報通信、クラウド等の新技術の導入及びInformation and Communication Technologyに関する研究開発により、教育・学修の機会の拡充と質の向上を実現する情報環境を整備する。 ・教育環境における学生及び教職員等の利便性の向上や学修成果の可視化を推進するため、学務システムや学修計画・記録書に教育上の成果等を確認しうる機能を充実し、平成30年度から運用を開始する。	【3】	優れた実績を上げている		【3】
中期計画1-2-1-2 【7】 産業界等との連携体制を整備するため、インターンシップや企業等における研究指導を実施するとともに、リサーチ・アドミニストレーター(URA)を研究指導等へ活用するため、URAが教育改革・改善に係る学内委員会等に参画する体制を確立する。産業界から講師を招聘したセミナー等を開催し、参加学生を70%以上とする。	【2】	実施している		【2】
中期計画1-2-1-3 【8】 24時間開館の附属図書館を能動的な学習を支援する場として整備するため、次の取組を行う。 ・研究図書館として利用者のニーズを把握し、電子図書館機能の更なる充実のためにオンラインジャーナル・各種学術情報データベースの利用環境を整備する。 ・能動的なグループ学習の場としてのラーニングコモンズの利用を促進するため、利用者への働きかけを行い、24時間開館等による利用者にとって良好な環境を提供する。	【2】	実施している		【2】
中期計画1-2-1-4 【9】 全学融合的な教育課程において、一貫した「学位プログラム」の質を保證するため、次の取組を行う。 ・知識科学の方法論を全学展開し、教育内容・方法の改善に取り組むため、対象となる教員に対してアクティブラーニング等の手法を用いたFDセミナー等を実施し、参加率を100%とする。 ・客観的な目標設定や学修成果の評価のために、学生の自主的な学びを促進する観点から、学生による自己評価と他者評価による教育評価方法を導入し、活用する。 ・シラバスにおいて成績評価の方針、具体的かつ統一的な基準及び客観的な判定方法を明示することにより厳格な成績評価を行うとともに、授業評価アンケートの結果を踏まえ、全学融合的なFDを通じて教育内容・方法の改善に活用する。授業評価アンケートの満足度を90%以上にする。 ・研究室教育指針を学生に明示して教育研究指導を行うとともに、教員間においても情報を共有し、教育内容・方法の改善に活用する。 ・3つの系(知識科学系、情報科学系、マテリアルサイエンス系)ごとに、特に博士後期課程においては、学外審査委員を加えた厳格な学位論文審査を堅持するとともに、その結果を踏まえ、学位審査委員会において全学的な見地から学位の授与に係る審議を行う。	【2】	実施している		【2】

北陸先端科学技術大学院大学

中期目標(大項目)	判定	下位の中期目標・中期計画における各判定の平均値 ※	(参考) 4年目終了時評価の判定	
中期目標(中項目)				
中期目標(小項目)				
中期計画				
中項目1-3 学生への支援に関する目標	【3】	達成している	3.00	【3】
小項目1-3-1 多様な背景を有する学生に対する経済的支援の見直しや学生生活及びキャリア形成・就職等への取組の充実を図り、よりきめ細やかな学生支援・指導を推進する。	【3】	達成している	2.00	【3】
中期計画1-3-1-1 【10】 学生への経済的支援を充実するため、本学独自の給付型奨学支援制度、Teaching Assistant及びResearch Assistant制度等の雇用型支援制度、学外活動支援制度等を継続的に実施し、その成果や効果を踏まえ、必要に応じて制度のスクラップアンドビルドを行うとともに、民間奨学制度を活用する。	【2】	実施している		【2】
中期計画1-3-1-2(◆) 【11】 学生のキャリア形成や就職活動を支援するため、次の取組を行う。 ・キャリア支援センター、指導教員、事務職員が協働し、個々の学生の進路希望状況の把握や学生指導の共有化を行うため、就職支援システムを利用した指導の体系化を行う。 ・産業界で活躍する博士後期課程修了者を増加させるため、企業が求める博士人材の調査、博士後期課程学生への指導、教員の意識改革等を行い、企業と協働した博士後期課程学生向けのセミナー、インターンシップの実施等の支援策を実施する。学位取得者のうち、産業界へ進む人材の割合を修士では70%、博士では50%とする。 ・留学生の日本での就職を増加させるため、早期の留学生向けガイダンス、留学生の採用を強化している企業との情報交換、日本語を含めた個別指導等の支援策を実施する。	【2】	実施している		【2】
中期計画1-3-1-3 【12】 学生の多様化を踏まえた支援・指導を推進するため、次の取組を行う。 ・留学生などの多様な学生に対する支援・指導の最適化に向けて、学内外の組織間の連携による各種講習会及び研修等の支援方策を実施する。 ・留学生が安心して修学できる環境を整備するため、留学生数及び出身国・地域の実績を踏まえ、学生間や地域との交流行事、チューター制度といった支援・指導策の見直し・充実を行う。チューター希望者に対するチューター充足率100%を維持する。 ・障害のある学生に対する施設面の配慮や保健管理センターとの連携による修学上の配慮などの支援策を整備するとともに、対象学生から意見を聴取し、支援内容を改善する。	【2】	実施している		【2】
中項目1-4 入学者選抜に関する目標	【4】	上回る成果が得られている	4.00	【4】
小項目1-4-1 全学融合体制の下、積極的な情報発信や意欲重視の入学者選抜を推進し、過去の経歴や専攻分野にとらわれることなく、広く大学等の卒業生や修了者、社会人及び留学生等を、円滑な学修を意図して受け入れ、より多くのイノベーション創出人材の養成に結びつける。	【4】	優れた実績を上げている	2.50	【4】
中期計画1-4-1-1(★) 【13】 効果的な情報発信等により志願者を増加させるため、次の取組を行う。 ・大学院説明会をはじめとする広報活動をより一層志願者の視点に立ったものに改善するため、WEB広告、ソーシャルネットワーキングサービス(SNS)等を積極的に取り入れると同時に、ダイレクトメール、車内広告等のアナログ広告媒体も効果を分析しつつ活用する。 ・過去の入学者の実績、地域性や専門分野などを検討し、重点的に取り組む大学、高等専門学校を明らかにして、本学教員による他大学や高専の教員への訪問・紹介を行い、日本人学生、社会人学生、留学生をそれぞれ3分の1ずつとする学生の構成を維持する。 ・地元自治体出身者の地域への定着に貢献するため、自治体・企業等との連携によりUターン学生を対象とする奨学制度を活用するなど受入支援体制を整える。	【3】	優れた実績を上げている		【3】
中期計画1-4-1-2 【14】 アドミッションポリシーに基づき留学生や社会人などの多様な学生を受け入れるため、知識重視の入学者選抜から能力・意欲・適性等の多面的・総合的評価・判定へ転換するなど入学者選抜制度の改善に取り組むとともに、WEB出願システムの機能の充実など出願方法の改善に取り組む。特に留学生については、英語による情報発信や現地での獲得活動を引き続き行い、渡日せずに入学者選抜を受ける体制を堅持する。	【2】	実施している		【2】

中期目標(大項目)	判定	下位の中期目標・中期計画における各判定の平均値 ※	(参考) 4年目終了時評価の判定	
中期目標(中項目)				
中期目標(小項目)				
中期計画				
大項目2 研究に関する目標	【5】	顕著な成果が得られている うち現況分析結果加算点 0.50	4.50	【5】
中項目2-1 研究水準及び研究の成果等に関する目標	【4】	上回る成果が得られている	4.00	【4】
小項目2-1-1 イノベーションデザイン研究、サービスサイエンス研究等の実績を生かして知識科学体系を確立し、ネットワーク・セキュリティ、理論計算機科学、ゲーム・エンタテインメント等の情報科学分野、半導体プロセス、インバーティブデバイス機能集積化、高性能天然由来マテリアル等のマテリアルサイエンス分野における世界トップレベルの研究実績をもとに先端的な研究を行い、世界や社会の課題を解決する研究(シーズ指向研究からニーズ指向研究への転換)に挑戦し、卓越した研究拠点を形成するとともに、新たな研究領域を開拓する。	【4】	優れた実績を上げている	2.33	【4】
中期計画2-1-1-1(◆) 【15】社会的課題の解決や未来ニーズに応える研究を推進するため、ミッションの再定義で掲げた本学の強み・特色であるイノベーションデザイン研究、サービスサイエンス研究、ネットワーク・セキュリティ、理論計算機科学、半導体プロセスに、ゲーム・エンタテインメント、インバーティブデバイス機能集積化及び高性能天然由来マテリアルを本学の強み・特色として加え、新たに2拠点を構築する国際的研究拠点・実証拠点(エクセレントコア)において次の取組を行う。 ・39歳以下の若手研究者の占める割合を40%以上とする。 ・研究指導を受ける大学院博士後期課程の学生数を大学院博士後期課程収容定員の10%以上とする。 ・外国人研究者の占める割合を30%以上とする。	【3】	優れた実績を上げている		【3】
中期計画2-1-1-2 【16】基礎研究や領域を超えた先端科学技術研究を展開し、新たな研究領域を開拓する。	【2】	実施している		【2】
中期計画2-1-1-3 【17】本学の強みである研究分野を発展させるため、国立研究開発法人や大学共同利用機関等との連携協定を4件以上締結し、中核大学として全国的な研究を展開する。	【2】	実施している		【2】
中項目2-2 研究実施体制等に関する目標	【4】	上回る成果が得られている	4.00	【4】
小項目2-2-1 社会的な課題を解決する研究や国際的研究拠点の形成をはじめとする各研究活動の状況に応じた研究支援体制を整備し、学外有識者を含めた検討体制による不断の見直しを行う。	【4】	優れた実績を上げている	2.50	【4】
中期計画2-2-1-1 【18】社会的な課題を解決する研究活動などに対応するため、必要な人材、設備、支援方策を把握するとともに、リサーチ・アドミニストレーター(URA)の確保、学内設備の共同利用など研究支援体制を整備し、研究成果への寄与度の観点から不断に見直し・改善を行う。	【2】	実施している		【2】
中期計画2-2-1-2 【19】研究の質を常に向上させるため、エクセレントコアや新たな先端科学技術研究及び研究ネットワークの推進状況について、学外有識者を含めた検討体制において研究組織の評価等を3年ごとに実施し評価結果により研究組織のスクラップアンドビルドを行うなど不断の見直しを行う。	【3】	優れた実績を上げている		【3】

北陸先端科学技術大学院大学

中期目標(大項目)	判定	下位の中期目標・中期計画における各判定の平均値 ※	(参考) 4年目終了時評価の判定	
中期目標(中項目)				
中期目標(小項目)				
中期計画				
大項目3 社会との連携や社会貢献及び地域を志向した教育・研究に関する目標	【4】	上回る成果が得られている	4.00	【4】
	なし	—	—	なし
小項目3-1-1 産業界での本格的利用・採用に至った産学連携の高い実績を踏まえ、産業構造や社会の変革を見据えた研究を統合的に展開し、産業のイノベーションに貢献するとともに、地域社会の発展にも寄与する。	【4】	優れた実績を上げている	3.00	【4】
中期計画3-1-1-1 【20】地域社会が抱える課題や産業構造の変化、技術革新による社会的ニーズの多様化を踏まえた産業界との連携を推進するため、産学官連携総合推進センター及びナノマテリアルテクノロジーセンターにおいて以下の取組を行い、共同研究、受託研究、技術サービスの年間実施件数を平成27年度と比較して30%増加させる。 ・産学官連携総合推進センターにおいて、リサーチ・アドミニストレーター(URA)の配置人数を平成27年度と比較して50%増加させる。産学連携・産産連携を推進する「マッチングハブ」事業をはじめとした産学官連携活動による企業及び他機関との協議件数を平成27年度と比較して50%増加させる。 ・ナノマテリアルテクノロジーセンターにおいて、研究設備の共同利用件数を平成27年度と比較して20%増加させる。技術サービス部による技術代行、技術相談の件数を平成27年度と比較して20%増加させる。	【3】	優れた実績を上げている		【3】
中期計画3-1-1-2 【21】教育研究成果を社会に還元するため、北陸三県の高等教育機関や地方公共団体等と連携し、地域が求める人材の育成に取り組むほか、一般市民向けの講演会を実施する等地域貢献活動に取り組む。	【3】	優れた実績を上げている		【3】
大項目4 その他の目標	【3】	達成している	3.00	【3】
中項目4-1 グローバル化に関する目標	【3】	達成している	3.00	【3】
小項目4-1-1 重点地域・機関を明確化した海外の大学等との教育研究交流や、世界レベルの研究開発・実証拠点形成に向けた取組を通じて戦略的な国際交流を推進する。	【3】	達成している	2.00	【3】
中期計画4-1-1-1 【22】世界的に卓越した大学等との教育研究交流を推進するため、次の取組を行う。 ・海外の大学等との連携による学生の相互交流を伴う協働教育について、これまで多数の留学生を受け入れ、学位を授与してきた実績を踏まえ、受入だけでなく、日本人学生の派遣を含めた改善と展開を行う。 ・これまで英語による講義の修得のみで学位取得を目指すことを可能としてきた実績を生かし、英語で受講可能な科目の開設を堅持する。	【2】	実施している		【2】
中期計画4-1-1-2 【23】社会的課題の解決や未来ニーズに応える研究を推進するため、ミッションの再定義で掲げた本学の強み・特色であるイノベーションデザイン研究、サービスサイエンス研究、ネットワーク・セキュリティ、理論計算機科学、半導体プロセスに、ゲーム・エンタテインメント、イノベティブデバイス機能集積化及び高性能天然由来マテリアルを本学の強み・特色として加え、新たに2拠点を構築する国際的研究拠点・実証拠点(エクセレントコア)において次の取組を行う。 ・39歳以下の若手研究者の占める割合を40%以上とする。 ・研究指導を受ける大学院博士後期課程の学生数を大学院博士後期課程収容定員の10%以上とする。 ・外国人研究者の占める割合を30%以上とする。	【2】	実施している		【2】

- ※ 中期計画に表示されている記号が示す内容は、それぞれ以下のとおり。
 (★):「個性の伸長に向けた取組」に特に関連する中期計画(「法人の特徴」参照)
 (◆):文部科学省国立大学法人評価委員会に承認された「戦略的かつ意欲的な目標・計画」
 (*):新型コロナウイルス感染症による影響を特に考慮して分析・判定した中期計画

※ 「下位の中期目標・中期計画における各判定の平均値」のうち、大項目「教育」「研究」の数値については、中項目の判定に使用した数値をそのまま大項目ごとに平均して算出し、その上で4年目終了時に実施した学部・研究科等の現況分析結果による加算・減算を行っている。

【教育】 達成状況評価

現況分析:「教育」

$$\left(\begin{array}{c} \text{当該法人における} \\ \text{大項目「教育に関する目標」} \\ \text{の中項目の平均値} \end{array} \right) + \left\{ \left(\begin{array}{c} \text{当該法人における} \\ \text{(I 教育活動の状況)、} \\ \text{(II 教育成果の状況)} \\ \text{の全判定結果の平均値} \end{array} \right) - 2^{\text{注1}} \right\} \times \text{係数 } 0.5^{\text{注2}}$$

【研究】 達成状況評価

現況分析:「研究」

$$\left(\begin{array}{c} \text{当該法人における} \\ \text{大項目「研究に関する目標」} \\ \text{の中項目の平均値} \end{array} \right) + \left\{ \left(\begin{array}{c} \text{当該法人における} \\ \text{(I 研究活動の状況)、} \\ \text{(II 研究成果の状況)} \\ \text{の全判定結果の平均値} \end{array} \right) - 2^{\text{注1}} \right\} \times \text{係数 } 0.5^{\text{注2}}$$

注1 現況分析は4段階判定となっており、【2】判定(相応の質にある)が基準となる判定のため、現況分析の教育または研究の全判定結果の平均値が2を上回る場合は加算、下回る場合は減算となる。

注2 現況分析結果の加算・減算に当たっては、達成状況の評価結果であることを考慮し、係数「0.5」を設定する。
 なお、加算・減算後の数値は小数点第3位を切り捨て処理しているため、現況分析結果加算点と教育または研究に関する大項目における判定の平均値の合算値が一致しないことがある。